

# interiorlifestyle

## 結果速報

2008年6月17日(火)

インテリア ライフスタイル

東京ビッグサイト(東京国際展示場)西ホール

2008年6月11日(水) - 13日(金)

**インテリア ライフスタイル、27,390人の業界関係者が来場し、大盛況のうちに閉幕!**

**今回は、2009年6月3日(水)~5日(金)、東京ビッグサイト 西ホールにて開催**

2008年6月11日(水)から13日(金)まで開催されたライフスタイル提案型国際見本市『インテリア ライフスタイル』が、大盛況のうちに閉幕した。前回の26,332人を千人以上上回る27,390人(登録実数)の来場者、および前回の600社を上回る31カ国・地域からの652社(国内419社、海外233社)の出展者を記録。出展者数、来場者数共に過去最多となった。

特に、会期最終日の6月13日(金)は前の2日間より1時間半早い16時30分に閉館したにもかかわらず、1日あたりの入場者数において過去最多となる9,200人を超える業界関係者が来場。最新の製品やトレンド情報を求めて足を運んだ来場者の多くが閉館ぎりぎりまで精力的に出展者ブースを周り、見本市の閉館を惜しむ声が多く聞かれるほどの盛況ぶりであった。

来場者数	6月11日(水)〔曇り〕	9,028人
	6月12日(木)〔雨/曇り〕	9,088人
	6月13日(金)〔晴れ〕	9,274人
	合計	27,390人

### 出展者からのポジティブな意見

多数の業界関係者が集結するインテリア ライフスタイルでは、年々新製品や市場に出る前のプロトタイプの出展が多くなっており、今年も多くの新製品の発表、インテリア ライフスタイルでしか見られない展示が見られた。多数の来場者を迎えて、会場内では盛んに商談、情報交換が行われ、活況の展示会場では多くの出展者から満足の声が届いた。

『Shinzi Katoh +』という新ブランドを、インテリア ライフスタイルで初めてお披露目したという江戸川物産(株) 開発管理部マネージャーの朝烏知紀氏は、インテリア ライフスタイルをブランド発表の場として選んだ理由を次のように語った。「従来のブランド『Sinzi Katoh』は別の見本市に出展していたが、今回商品価格帯を上げたハイクオリティーな新ブランド『Shinzi Katoh +』を発表するには来場者の質が高いインテリア ライフスタイルが適切と考え、初出展した。インテリアショップなどからの来場者が多いようで、新規の方ともお話しできた。従来の『Shinzi Katoh』を知ってる方にも、新しいラインナップは「見たことない!」と興味を持ってご覧いただけた。ショップのように作ったブースで幅広いラインナップを一同に見ていただくことは、ショップの売り場提案にもなると思う。反響は上々。」

2006年から NUSSHA ブランドを出展している山中塗器連合共同組合事務局長の家田政司氏は、「今回は、まだ価格も付いていないような試作段階の新製品のプロトタイプを出展した。このあと、海外見本市に出展するが、そのためのマーケティングとしてインテリア ライフスタイルで来場バイヤーのみなさまのご意見を伺えた。インテリア ライフスタイルは日本国内で一番良い展示会だと思っている。来場バイヤーは若い人が多く、特に女性が多い。従来出展していたような漆器の展示会では年配の方ばかり。インテリア ライフスタイルはインテリアショップやライフスタイルショップなどの若手バイヤーなどとの出会いの場として活用させてもらっている」と出展の意義についてコメントした。

『HENRY DEAN』という国内未流通の新ブランドをインテリア ライフスタイルで初めて紹介した TIS TOU 代表の平田倫子氏は、「今年は例年以上に出展の手ごたえが感じられた」とコメントした。「この新ブランドはミラノ・サローネやアンピエンテなど海外見本市では出展されているが、日本ではインテリア ライフスタイルで今回紹介するのが初めて。インテリア ライフスタイルでのみの受注受付を行うようにしたのだが、手ごたえは上々。とはいえ、日本の方はまだ見本市会場で即取引をするのに慣れていない。欧米のように見本市会場で即取引をする商習慣が日本でも定着すれば良いと願っている。今回の出展は、非常に反響があった。特に初日と2日目は、対応に追われてスタッフが休憩できないほど多くの来場者がブースに立ち寄っていただけた。中でも、初日は購買意欲が高い来場者が多く、良い商談ができた。今年から11月に開催される IFFT/interiorlifestyle living への出展も是非検討したい。」

また、今回インテリア ライフスタイルでは初めてとなるベルギー・パピリオンを出展したベルギー・フランダース政府のエグゼクティブ・アシスタントである児玉曜子氏は、出展の経緯と反響を次のように語った。「2007年からスタートした『ターゲットセクター』というプロジェクトで、第一回目(2007~2011年)のターゲットがデザイン部門となり、その一環でインテリア ライフスタイルに出展した。美食の国としてのイメージは定着しているが、ベルギーのデザインについては日本であまり認知されていないのが現状。奇抜な目を引くデザインというのではないが、ベルギーのプロダクトは機能性に優れた高品質なものが多い。そうしたベルギーのデザインの良さを日本のみなさまにプロモーションしていくのが狙い。プロジェクト初年度の2007年は別のデザイン・イベントに出展したが、一般の来場者が多くビジネスに結びつかなかった。インテリア ライフスタイルは業界の方が来場しており客層の質も高いため、同パピリオン出展者はみな満足している。多くの来場者を迎えることができた。商談ができたという話も出展者から聞いている。来年は是非もう少しパピリオンの規模を大きくして出展したい。」

ポルトガル企業 Dicame, S.A.の営業マネージャーであるマルコ・フォンタオ(Marco Fontao)氏は初めて出展したインテリア ライフスタイルについての印象を以下のように語った。「日本の見本市に出展したのは初めてだが、インテリア ライフスタイルは非常に活気があった。朝は開場するやいなや多くの人が来場し、会場内は夕方閉場するまでずっと賑わっていた。ヨーロッパの見本市は規模が大きいが来場者数が減っている見本市も多く、そういう意味では年々規模を拡大しているインテリア ライフスタイルには非常に勢いがある。出展目的は日本で我々の製品の販売を請け負ってもらえる代理店を見つけるためだったが、多数のコンタクトが得られた。高品質なものが売れる市場である日本は、最高の素材のみを使用して製造している我々の製品を販売する良い市場だろうとかねがね思っていた。今回出展し、日本の来場者の反

応から、今では我々の日本におけるビジネスの成功を確信している。インテリア ライフスタイルへの出展は非常に有意義であり、満足している。」

本邦初公開となる新しい食文化を提案するプロジェクト『フーデザイン グッツィーニ メイドインジャパン (Foodesign Guzzini Made in Japan)』の展示で開幕前から注目を集めていたイタリアの食器メーカー、グッツィーニ。その展示をサポートしたイタリア貿易振興会東京事務所の家具・インテリア・建材部門アシスタントトレードアナリストである大西三知子氏は出展を統括して、次のように語った。「アトリウム内の非常に良い位置に出展ブースをいただけたので、多くの方に来場いただくことができた。日本人デザイナーとのコラボレート企画だったせいか、海外来場者が非常に多かった。プレスやデザイナーの注目度も高かったようだ。グッツィーニというイタリアでは知らない人はいないというぐらいのブランドだが、日本ではご存じない方もいらっしゃるので、今回の出展は企業としての認知度を高める目的が大きい。インテリア ライフスタイルは様々な分野のプロフェッショナルが来場する見本市であるので、今回こちらで展示を行った。ユーロ高の現在、ヨーロッパ企業が価格競争でモノを売るのは難しい。モノを単に販売するのではなく、プロダクトの背後に文化や背景がある商品を提案していかないといけない時代。そういう意味でも今回のこのプロジェクトは面白い企画だったのではないか。世界で活躍する著名デザイナーをはじめ、若手デザイナーや企業のインハウス・デザイナーなど、豪華な顔ぶれの日本人デザイナー36名が参加したまたとない企画を、多くの日本のみなさまにご覧いただけて良かった。」

### 大好評の特別企画！

今年のインテリア ライフスタイルを語る上で外せないのが、様々なアプローチでライフスタイルを提案した特別企画だ。例年、出展者と来場者の双方から好評の特別企画だが、今年も日本でも人気の高い北欧をフィーチャーした特別企画『NORDIC LIFESTYLE』がアトリウムにて展示され、多くの来場者を集めていた。北欧4カ国(デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド)のデザイナーやメーカー、またこれらの国々の製品を扱う出展者により、北欧のライフスタイル提案が行われたこのエリアでは、ナチュラルな木製製品や色彩豊かな雑貨を前に、多くの来場者が足を止め、製品を手にとって見ている姿が見られた。

アトリウムの中央のフラワーモニュメントの制作を担当したニコライ・バーグマン フラワーズ & デザインの営業統括の岡本恵子氏は、「ニコライはアレンジメントのデモンストレーションや視察としてここ数年来アンビエントにも行っているため、そういう経緯からインテリア ライフスタイルのことは知っていたはずだが、日本で出展するのは今回が初めて。出展にあたって、資料を新たに作成するなど色々な事前準備をした。その甲斐あってか、たくさんの方に来場いただき、彼の世界観をご覧いただくことができた。アトリウム中央にも彼のモニュメントを設置したので、興味を持って見てくださる方が多かった。企業や百貨店、小売関係の来場者からは、ディスプレイやニコライによるデモンストレーション、イベントや会社の行事などのお話など、新しい仕事のご提案もいただけた」と出展の成果を語った。

「初日だけで、名刺をいただいたのが400名以上、DMは700部配布した。たくさんの方にお立ち寄りいただくことができ、商談が出来るような方にもお目にかかれた。来場者で多いのは小売店の方。昨年は来場者としてインテリア ライフスタイルに参加した。当初は見本市というものの効果について懐疑的だった。出展するには金銭的にも負担が大きいし、それだけの効果はあるのだろうか迷っていた。しかしインテリ

アライフスタイルはおしゃれでスタイリッシュな展示会なので、ブランディングの意味でもプラスになると判断し、出展を決意した。弊社としても日本できちんと販売していく礎が整ったところで出展できたこと、そしてノルウェーの椅子を取り扱う弊社にとって今年の企画と初出展のタイミングが合ったことなど、色んな意味で素晴らしいタイミングで出展できたと満足している」と語ったのは、このエリアに出展していた株式会社プロダクトマーケティングサービス 取締役営業マネージャーである坂本東治氏。

### **INTERIOR LIFESTYLE AWARDS を 5 社 / 組が受賞**

一昨年からの企画『INTERIOR LIFESTYLE AWARDS』。会期初日のウェルカム・レセプションの席上で、全出展者の中から選定された 5 社 / 組の出展者が表彰され、選定者より各受賞者にトロフィーが贈呈された。授与されたのは、以下の 5 つの賞。

**「JID DESIGN AWARD」(選定:日本インテリアデザイナー協会 川上玲子氏)**

アイオーティカーボン株式会社

**「JDCA DESIGN MANAGEMENT AWARD」(選定:日本デザインコンサルタント協会 船曳鴻紅氏)**

YOnoBI

**「mono magazine AWARD」(選定:モノ・マガジン編集長 帆足泰子氏)**

foodesign guzzini

**「NIKKEI DESIGN Award」(選定:日経デザイン編集長 下川一哉氏)**

株式会社大直

**「interiorlifestyle Young Designer Award」(選定:インテリアライフスタイル プロデューサー 高田公平氏)**

sora design works

2009 年 2 月ドイツ・フランクフルトにて開催される世界最大の消費財見本市「アンビエンテ」内デザイナー・エリア「talents」への招待特典付きのインテリア・ライフスタイル・ヤングデザイナー賞を手にしたのは sora design works のデザイナーである阿部和美氏。「昨年は知り合いの出展者を訪問して来場者としてインテリアライフスタイルに参加。その際に、自分も出展してみたいと思った。neON は若手デザイナーにプロモーションの場を与え、若手デザイナーと企業を結ぶという素晴らしい企画。実際に出展してみて、メーカーの方、ショップからの来場者など、多岐にわたる来場者が来ていると感じた。私も出展して、企業とのコラボのお話をいただくことできた。出展できる 9 組のデザイナーの枠に選ばれるのも難関だと思っていたので、インテリアライフスタイルに出展できるというだけでも嬉しかったのに、ヤング・デザイナー賞という素晴らしい賞をいただき、アンビエンテにも招待していただけると聞いて、本当に嬉しい。周りは海外見本市でも発表しているような実力者ばかりのなかで、せっかくいただいたチャンスなので、2 月まで精一杯準備して臨みたい。デザインの際には、プロダクトがインテリアシーンで使われやすいように、思いが届くようにデザインをすることを心がけている。女性の感性を活かした、使い手のことを考えた細やかなデザインのプロダクトを世界中の人に見てもらいたい」と同氏は受賞の喜びとアンビエンテ出展への意気込みを語った。

次回のインテリア ライフスタイルは、2009年6月3日(水)～5日(金)、東京ビッグサイト 西ホールにて開催される。また、今年から新たに開催される見本市『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』は、11月19日(水)～22日(土)の4日間、東京ビッグサイト 東ホールにて開催される。

- 終わり -

全 5,863 文字(スペース含む)

問い合わせ

メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

プレス・PR 担当 新居延訓子

Tel: 03 3262 8456 / Fax: 03 3262 8442

[niinobu@mesago-messefrankfurt.com](mailto:niinobu@mesago-messefrankfurt.com)